



Title	スペイン語とカタルーニア語の比較
Author(s)	伊藤, 太吾
Citation	Estudios Hispánicos. 1993, 17, p. 45-56
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/93805
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

[研究ノート]

El castellà i el català comparats

伊 藤 太 吾

イベリア半島にはガリシア・ポルトガル語、カスティリア語、カタルーニア語の3つのロマンス語が行われている。それぞれの言語には複数の方言・下位方言がある。R.メネンデス・ピダルをはじめとする主としてカスティリア地方の古典的な考えでは、イベリア半島の上記の3つのロマンス語は均質的なロマンス語、すなわち、proto-ibero-romance から発達したのがゆえに、中央部にカスティリア語が楔のようにはまり込み、その結果、ガリシア・ポルトガル語とカタルーニア語が守旧の様相を呈し、カスティリア語が革新的な風貌を醸し出しているという、いかにも皮相的な観察が一世を風靡したことがあったが、それは科学的な学説というよりはむしろ、文学的・政治的なねらいをもった一種のプロパガンダであったと考える方が妥当であろう。確かにカスティリア語にはラテン語になかった現象が他の言語と比較して多い。しかし同時に、ガリシア・ポルトガル語やカタルーニア語にも革新的と呼んでさしつかえない現象が多くあるように思われる。確かに Badia Margarit (1955) のようなカタルーニアの言語学者でさえ、“カタルーニア語は *menos evolucionado* で *más fiel al punto de partida latino* である”と言っている。A.Griera(1965)が“*el catalán es una lengua cuyos caracteres son netamente galo-románicos*”と言っているのは初期のロマンス語学者 Raynouard(1821), Diez(1873-5), Meyer-Lübke(1925)などの流れを汲むものである。文学史上、カタルーニア地方は文語としてプロバンス語に頼っていた時代があったのは事実であるが、そのように一時的にある外国語に頼るということは他の多くの言語にも見られたことである：フランス語を話すノルマンに征服された英語、フラン

ス語を話すデカルトによるラテン語による著作、中世カスティリアにおけるガリシア語による叙情詩、等。しかし、これらの言語は大なり小なりの影響は受けはしたが、いずれの場合も文化の本質を反映する口語は自らのアイデンティティを失うことは決してなかった。ダルマティア語が死滅するといったように、およそある言語が自らのアイデンティティを失う事は例外的なことであるが、それ以上にあるロマンス語から他のロマンス語が誕生した例は、ルーマニア語からモルダヴィア語が派生した（と主張する説）以外は、ない。

本稿では現代スペイン語と現代カタルーニア語の様々な現象を紙幅の許す限りにおいて記述し、比較検討してみたい。ある言語が革新的であるとか守旧的であるとかいうことに今日的意義があるか否かにたいして、そろそろ終止符が打たれるべき時に来ているのではなかろうか。尚、本稿は拙著『スペイン語からカタルーニア語へ』（1993年）とごく一部重複する項目があるが、基本的には両者は補完し合うものである。

さて、Colón (1989) によれば、カタルーニア語の音韻・形態・統辞に関する主な特徴は次の12の項目に絞られると言う。

- 1) アクセントのある Ē と Ō が二重母音化しない: bé(bien), cent(ciento), cel(cielo), os(hueso), etc.
- 2) ヨッドの影響による Ē と Ō の二重母音化とそれに引き続く単母音化: llit[<*lieit] (lecho), mig(medio), fulla(hoja), etc.
- 3) -A 以外のアクセントのない語末母音の消失: foc(fuego), fam(hambre); sac(saco); teula(teja), cadira(cf. silla), etc.
- 4) アクセントのある音節の前の音節の母音間 -C^e i-, -TY- の消失: veí (vecino); cuina(cocina), saó(sazón), etc.
- 5) L- の口蓋音化: llaç(lazo), llit(lecho), llop(lobo), llum(lumbre, luz), etc.
- 6) -MB->-m-, -ND->-n- の同化現象: plom(plomo); fona(honda); manar (mandar), etc.
- 7) 語末の -n の消失: camí(camino); má(mano); graó(cf. escalón), etc. しかし、複数はそれぞれ, camins, mans, graons である。
- 8) 語末の -TY, -C^e i, -D の -u への変化: preu(precio); veu(voz); peu (pie), etc.

- 9) 所有形容詞と定冠詞との併用: el teu llibre(tu libro); la meva dona (mi mujer), etc. cf. un altre dia = otro día, etc.
- 10) u を有する動詞の完了形が [-k] を生み, その影響で現在時制にも [-k] が現れる: estec(estuve) → estic(estoy), venc(vine) → vinc(vengo), puc(pude) → puc(puedo), etc.
- 11) ラテン語の第2活用 of 動詞の第3活用への編入: seure(sentar); caure(caer); beure(beber), etc. その結果, prendre(prender), perdre(perder), moldre(moler), etc. と混同される。起動相の動詞の活用に大きな差異がある: CRESCERE の直説法現在 creixo(crezco), creixes(creces), creix(crece), creixem(crecemos), creixeu(crecéis), creixen(crecen);
- 12) 動詞の過去形 (アオリスト) が「anar + 不定詞」の迂言法で表される: vaig portar(llevé); va ploure(llovió), etc.

しかし, カタルーニア語とカスティリア語との差異が上記のような項目だけではないということは, 明らかである。以下に主な差異を概観してみよう。

- 13) カタルーニア語では F- > f- を保つ。

fer = hacer	する, 作る
fill = hijo	息子
fermós = hermoso	美しい
fulla = hoja	木の葉

NB これはカスティリア語以外のすべてのロマンス語に共通する現象である。

- 14) カタルーニア語では CL-, FL-, PL- が保たれるが, カスティリア語では ll- になる。

CLAMARE > clamar(llamar), FLAMMAM > flama(llama), PLANCTUM > plant(llanto), etc.

NB これはロマンス諸語の中でも一致をみない現象である。

- 15) カタルーニア語には破摩音 [ts]・[dz]・[dʒ] が保たれている。
potser(quizás の意), tots(todos); dotze(doce), atzar(azar); viatge(viaje), desitja(desea), etc.

NB これらは中世スペイン語ではよく行われていた発音である。

16) カタルーニア語では単数形が、カステイリア語では複数形が用いられる例が多い。

la Rambla = las Ramblas	ランブラ(ス)通り
el Pirineu = los Pirineos	ピレネー山脈
Bon dia. = Buenas días.	こんにちわ。
Bona tarda. = Buenas tardes.	こんにちわ。
Bona nit. = Buenas noches.	こんばんわ。

NB カステイリア語のほうが誇張的な表現を好む結果であると言える。

17) カタルーニア語では特殊な人名冠詞が使用される。

en Joan = Juan	ホアン
l' Antoni = Antonio	アントニオ
la Laura = Laura	ラウラ

NB カステイリア語では定冠詞は軽蔑的に用いられることが多いので、用法に差異がある。冠詞が人名とともに用いられるのは他のロマンス語にもみられるが、守旧的現象である。

18) カタルーニア語とカステイリア語では用いられる語彙に差異がある。

カタルーニア語の語彙はオック語またはフランス語と同じ語源のものをを用いるケースが多い。ここではすべてを網羅するつもりはないが、フランス語源と同一のものが多くいることをみるために、常用語彙から主要なものをいくつか挙げてみよう。

ラテン語	ポルトガル語	カステイリア語	カタルーニア語	フランス語	ラテン語
CAMAM	cama	cama	llit	lit	LECTUM
CASEUM	queijo	queso	formatge	fromage	FORMATICUM
COMEDERE	comer	comer	menjar	manger	MANDUCARE
FABULARE	falar	hablar	parlar	parler	PARABOLARE
FERVERE	ferver	hervir	bullir	bouillir	BULLIRE
HUMERUM	ombro	hombro	espatlla	épaule	SPATULAM
*MANEANA	manhã	mañana	matí	matin	MATUTINUM
MENSAM	mesa	mesa	taula	table	TABULAM
METUM	medo	miedo	por	peur	PAVOREM
PRIMUM	primo	primo	cosí	cousin	CONSOBRINUM

NATAM	nada	nada	res	rien	RES
PARDUM	pardo	pardo	gris	gris	*gris(frq.)
PASSAREM	pássaro	pájaro	ocell	oiseau	AUCELLUM
PLICARE	chegar	llegar	arribar	arriver	ARRIPARE
QUAERERE	querer	querer	voler	vouloir	VOLERE
RECITARE	rezar	rezar	pregar	prier	PRECARE
ROGARE	rogar	rogar	pregar	prier	PRECARE
SOBRINUM	sobrinho	sobrino	nebot	neveu	NEPOTEM
TOMARE	tomar	tomar	prendre	prendre	PREHENDERE
UVAM	uva	uva	raïm	raisin	RACEMUS
VERANUM	verão	verano	estiu	été	AESTATEM

これらの僅かな例からだけではカタルーニア語のオック語・フランス語志向の理由ははっきりとは分らないが、脱イベリアの傾向は十分に認められる。Colón (1976) によると、極めて少ない語彙に限っての話ではあるが、約70%がガリア・ロマンス語的であり、残りの約30%がイベリア・ロマンス語的であると言う。しかし、筆者は明確な数字を示すことはできないが、次のような汎イベリア的語彙もカタルーニア語に多く認められるというのは事実である。

GERMANUM	irmão	hermano	germà	frère	FRATREM
MAGIS	mais	más	més	plus	PLUS

- 19) カタルーニア語とカスティリア語ではアラブ語源の語彙の形態に差異がある。冠詞の a(1)- がカスティリア語にはついているものが多いが、カタルーニア語にはフランス語同様に多くない。Elcock(1960), Entwistle(1962), Solá-Solé(1967-8), Bergquist(1981)などを参考にポルトガル語・カスティリア語・カタルーニア語・フランス語に共通するアラブ語源の単語を少し見てみよう。

ポルトガル語	カスティリア語	カタルーニア語	フランス語
açafrão	azafrán	safrà	safran

açúcar	azúcar	sucré	sucré
—	aduana	duana	douane
—	albornoz	barnús	burnous
algodão	algodón	cotó	coton
—	almacén	magatzen	magazin
cânfora	alcanfor	camfora	camphre
enxôfre	azufre	sofre	sulfure
alcachôfra	alcachofa	carxofa	artichaut
arrabalde	arrabal	raval	faubourg

勿論, álcool(ポ) alcohol(カス) alcohol(カタ) alcool(フ) の例のように4つのすべての言語に al- がついている例も皆無ではないし, zero cero zero zéro; xifra cifra xifra chiffre の例のように4つのすべての言語に al- がついていない例もあるし, alcachôfra(ポ) alcachofa(カス) carxofa(カタ) artichaut(フ) の例のようにカタルーニア語のみに al- がついていない例もあれば, arrabalde(ポ) arrabal(カス) raval(カタ) faubourg(フ) の例のように, カタルーニア語には al- がつかず, フランス語ではラテン語とケルト語との混交語が用いられている例もある。Solá-Solé (1967-8) によれば, al- で始まる単語はカスティリア語ではアラブ語からの借用語の 6・70% に達するが, カタルーニア語においては僅か30%強である。いずれにしても, カタルーニア語やフランス語はアラブ語との接触がカスティリア語の場合ほど緊密でなく, さらにアラブ語を借用する際に耳からでなく文字から借用した例が多いということと, カスティリア語の場合, より具体的なシチュエーションでアラブ語を借用したというのが定冠詞の有無に関する大きな理由であろう。

20) その他の語彙の差がカタルーニア語とカスティリア語に認められる。

A quina hora és, *el sopar*?

夕食は何時ですか。

= ¿A qué hora es *la cena*?

Tinc molta *gana*.

私はとても空腹です。

= Tengo mucha *hambre*.

Digueu-los que som aquí.

私はここにいると言って下さい。

= Díga-les que *estoy* aquí.

- El mercat és a prop. 市場は近い。
 = El mercado *está* cerca.
 No era *gaire* lluny. あまり遠くなかった。
 = No estaba *muy* lejos.
 No *tothom* té la sort de tenir jardí. 誰もが庭をもつという幸運をもって
 = No *todo el mundo* tiene la suerte いる訳ではない。
 de tener jardín.
 Ha tocat pitjor que *mai*. 彼はいままでになくへたに演奏した。
 = Ha tocado peor que *nunca*.
 Ell *no* surt *mai*. 彼は決して外出しない。
 = El *nunca* sale.
 Ella *no* fa *mai* res. 彼女は決して何もしない。
 = Ella *nunca* hace *nada*.
 Té *només* setze anys. 彼はたったの16才だ。
 = Tiene *solamente* *dieciséis* años.
 Plou a bots i barrals. 土砂降りだ。
 = Llueve a cántaros.
 Com ha *anat* el viatge? 旅行はどうだったですか。
 = ¿Cómo ha *ido* el viaje? NB *viaje* はカタルーニア語からの
 借用語である。
 No *descuides* el gelat. アイスcreamを忘れるなよ！
 = ¡No *te olvides* del helado!
 A reveure. じゃあまた。
 = Hasta la vista. NB ルーマニア語: La revedere.
 21) カタルーニア語では、現在完了の過去分詞が直接目的語となる代名詞
 の性・数に一致する。
 Les hem vistes. 我々は彼女らに会った。
 = Las hemos visto.
 NB これは中世スペインでよく用いられていた語法である。
 22) カタルーニア語の未来の時を表す従属節では、接続法現在ではなく、
 直説法未来形が用いられる。

Quan tornarà en parlarrem. 彼が帰って来たら、その話をしまし
 = Cuando vuelva, hablaremos de eso. よう。

NB これは Cantar de Mio Cid でよく用いられていた語法である。

23) カタルーニア語とカステイリア語では用いられる前置詞(句)に差異がある。

<i>amb</i> la seva filleta	娘と共に
= <i>con</i> su hijita	
Què hi ha <i>al</i> menjador?	食堂には何がありますか。
= ¿Què hay <i>en</i> el comedor?	
Ara són <i>a</i> Londres.	彼らは今ロンドンにいる。
= Ahora están <i>en</i> Londres.	
Tarda a venir.	彼は来るのが遅い。
= Tarda <i>en</i> venir.	
Vindrà <i>d'ací</i> a mitja hora.	彼は半時間後に来るでしょう。
= Vendrà <i>dentro de</i> media hora.	
La classe no comença <i>fins a</i> dos quarts de vuit del vespre.	授業は午後7時半まで始まらない。
= La clase no empieza <i>hasta</i> las siete y media de la tarde.	

24) カタルーニア語とカステイリア語では用いられる接続詞(句)に差異がある。

<i>Abans que</i> vostè se'n vagi d'aquí, en menjarem.	あなたがここを去る前に、何か食べるとしましょう。
= <i>Antes de que</i> salga de aquí, comeremos.	
<i>Com que</i> són tan obedients, mereixen joguines.	彼らはとても柔順だから、おもちゃを貰う資格がある。
= <i>Como</i> son tan obedientes, merecen juguetes.	
<i>Encara que</i> plogui, sortirem demà.	明日雨が降っても私達は出掛けるで
= <i>Aunque</i> llueva, saldremos mañana.	しょう。

25) カタルーニア語では CUIUS に由来する関係形容詞は用いられない。
 Hi ha una universitat, la façada de la qual és una meravella. 正向が実にすばらしい大学がある。

= Hay una universidad cuya
 fachada es una maravilla.

NB CUIUS は古ラテン語に由来するので、カタルーニア語のほうが革
 新的である。

26) カタルーニア語ではカスティリア語では用いられない副詞的代名詞が
 使用される。

Tens paper? — No *en* tinc. 君は紙を持っていますか。

= ¿Tienes papel? — No tengo papel.

Tens gaire feina? — En tinc molta. 君はすることが多いですか。多いで

= ¿Tienes muchos quehaceres? — す。

Tengo muchos quehaceres.

Aquest clima és fred; no m'hi puc acostumar. ここの気候は寒い。私は慣れること
 ができない。

= Este clima es frío; no puedo
 acostumbrarme.

NB カタルーニア語のほうが守旧的である。

27) カタルーニア語とカスティリア語では時間・時刻の表現方法に差異が
 ある。

És un quart d'onze. 10時15分です。

= Son las diez y cuarto.

Ja és un quart i cinc de dotze. もう11時20分です。

= Ya son las once y veinte.

Són tres quarts de sis. 6時15分前です。

= Son las seis menos cuarto.

É d'hora. まだ早い。

= Es temprano.

28) カタルーニア語とカスティリア語ではその他の一般的な表現方法に差
 異がある。

El fetge li fa mal. 彼は肝臓が痛む。

= Le duele el hígado.

- En havent dinat, els farà. 彼は食事を終え次第、それらをする
 = En cuanto haya comido, los hará. でしょう。
 Ell és més seriós que sembla. 彼は外見よりまじめです。
 = El es más serio de lo que parece.
 La germaneta s'estima més la 妹は子牛の肉のほうが好きです。
 carn de vedella.
 = A la hermanita le gusta más
 la carne de ternera.
 A mi no m'agrada gens d'estar-me 私はそんなに長い間静かにしている
 quiet tantes hores. のは全く好きではありません。
 = A mí no me gusta nada estarme
 quieto tantas horas.

カタルーニア語は Badía Margarit (1955) の言うように、確かに地理的にはイベリア・ロマンス語とガリア・ロマンス語との “lengua puente” ではある。幾つかの際立った特徴がピレネーを越えたオック語やフランス語と共通している事実があるものの、それは両者がラテン語に由来するということに起因する自然の現象であって、支配とか二次的派生の結果ではない。「牛の頭」が遠く離れたカタルーニア語とルーマニア語がともに *cap de bou* であるからといって誰も相互影響説を唱えないのは、偶然の一致であることをみんなが知っているからであるのと同様に、フランス語圏・オック語圏の言語文化にカタルーニア語圏が支配されたという歴史的事実がないわけだから、影響説の出現する余地はない。ましてや、カタルーニア語はガリシア・ポルトガル語と共通した守旧の様相を呈していて、明らかにイベリア系のロマンス語であることは否めない。しかし同時に、上で見たようにカスティリア語のほうが守旧的な面もある。“lengua-puente” であると言うと、いかにも（カスティリア語やフランス語？のように）一人前の言語の地位を得ていない半人前の言語の感じを与える名称である。確かに運用人口は約 400 万人と、カスティリア語と比較したら遥かに少ない。しかし、約 4・50 万人のレト・ロマン語や約 90 万人のサルジニア語などと比較すれば、実に多い。否、人口の問題ではない。

限られた紙幅の中で、特にカスティリア語とカタルーニア語との差異に

焦点を当ててみたが、カスティリア語が多くの人達が言うように、確かに革新的言語・イベリア半島の異端児的な言語であるとすれば、カタルーニア語はイベリア半島の東端に位置して頑なに自らの生い立ちを死守しつつも、近隣の姉妹と絶縁しきれない少し古風な面と同時に進取の気性を兼ね備えた言語であるとは言えないであろうか。カスティリア語はイベリア半島の中にあって最も非イベリア的な影響を受けた言語であるが、カタルーニア語は、語彙の面では明らかにオック語・フランス語的様相を呈しつつも、外的影響の少ない環境下でゆっくりと自然発生的な発展をしつつある言語であると言えよう。上では扱わなかったが、曖昧母音の多用・語末子音（連鎖）の多用・閉音節的傾向などがロマンス諸語の中にあってルーマニア語とともに音声面での最も際立った革新的現象である反面、多くの守旧的現象も内蔵していることを上で考察した。一人の人間が革新的様相と守旧的様相を同時に兼ね備えているように、言語は人間性の反映であるから、矛盾するように見える両面を兼ね備えていても不思議ではないが、ある言語の特徴を観察するのに、そのような皮相的なとらえかたをただけでは十分ではなく、やはり綿密に実例を明示して事実を明らかにすることが必要である、ということが上の実例で理解できよう。

参考文献

- Badía Margarit, A. (1951): Gramática histórica catalana, Barcelona.
 Badía Margarit, A. (1955): Fisiognómica comparada de las lenguas catalana y castellana, Barcelona.
 Badía Margarit, A. (1985): Gramática catalana, Madrid.
 Bergquist, F.M. (1981): Ibero-Romance, Washington, D.C.
 Colón, G. (1976): El léxico catalán en la romanía, Madrid.
 Colón, G. (1989): El español y el catalán, juntos y en contraste, Barcelona.
 Corominas, J. (1972): El que s'ha de saber de la llengua catalana, Palma de Mallorca.
 Diez, F. (1873-5): Grammaire des langues romanes, Paris.
 Elcock, W.D. (1960): The Romance languages, London.
 Entwistle, W.J. (1962): The Spanish Language together with Portuguese, Catalan and Basque, London.
 Gili, J. (1974): Catalan Grammar, Oxford.
 Griera, A. (1965): Gramática histórica catalana, Barcelona.
 Jordana, C.A. (1968): El català i el castellà comparats, Barcelona.
 Lleal, C. (1990): La formación de las lenguas romances peninsulares, Barcelona.
 Macarie, L. et al. (1974): Estructuras semánticas en los idiomas ibéricos, Bucarest.

- Meliá, J. (1970): Informe sobre la lengua catalana, Madrid.
- Meyer-Lübke, W. (1925): Das Katalanische, Heiderberg.
- Moll, Francisco de B. (1952): Gramática histórica catalana; Madrid.
- Raynouard, Fr. (1821): Grammaire comparée des langues de l'Europe latine, Paris.
- Salvador, G. (1987): Lengua española y lenguas de España, Barcelona.
- Solá-Solé, J.M. (1967-8): El artículo al- en los arabismos iberorrománicos, *Romance Philology*, 21.
- Steiger, A. (1991): Contribución a la fonética del hispano-árabe y de los arabismos en el ibero-románico y el siciliano, Madrid.
- Terry, A. & Rafel, J. (1987): Introducción a la lengua y literatura catalanas, Barcelona.
- 伊藤太吾 (1993) : スペイン語からカタルーニア語へ, 東京.